



月2回のお米



コメ市場に関する情報がここに凝縮されています。
毎月第2・第4木曜日 夕方発行

新潟コシヒカリ

発行日 : 2020/8/31

新潟コシ [日足] 191031 - 200827



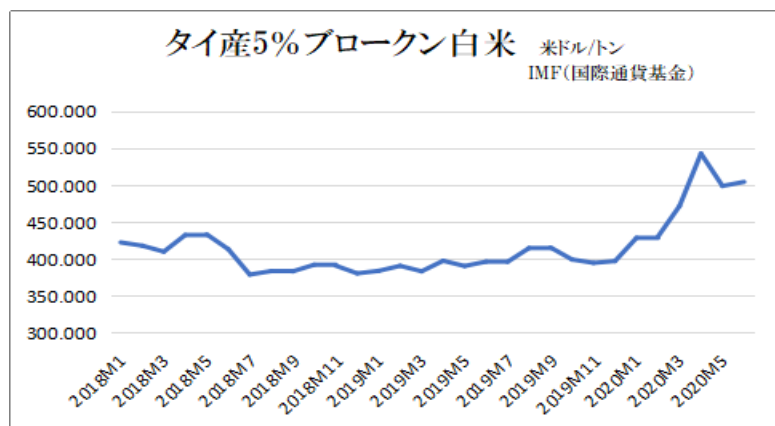
TOPICS タイの大幅減産で高騰する国際コメ価格

タイ・コメ輸出業協会（TREA）によると、2019年コメ輸出量が世界2位であったタイの2020年1～6月期のコメ輸出量は、前年同期比▲32%減の314万トンとなり、輸出額は同▲12%減の22億米ドルにとどまった。低迷の理由はパーツ高と干ばつによるものである。メコン川の水位低下で、ベトナムでは2万ヘクタール近い塩害が生じている。この結果、タイのコメ輸出量はインド、ベトナムに次ぐ世界3位に後退する見通しである。

これに伴い、タイ産の米価が高騰している。世界銀行によると、ブローケン5%の米のタイ・バンコクの平均輸出価格（FOB:本船渡し価格）は、トン当たり450ドル台（約5万円）まで値上がりし、2018年5月以来の最高値を更新している。

東南アジア諸国連合・食料安全保障システムの発表では、東南アジア地域の乾期米が、昨年の雨期後半の降雨量の減少で必要な水が確保できず、作付けを見送った水田が多いことが分かった。特にタイの作付けは例年の3分の2にとどまり、ミャンマーでも同4分の3となった。また、生育中のコメも水不足で粒重が減り、大幅な減産が見込まれている。

またカンボジアでも多くの地域で干ばつが進み、生産量減少が必至とみられている。主に西部で枯死が目立っている。同国では、乾期米栽培は雨期中の残り水を使うのが一般的。しかし、今年は雨期にもかかわらず降水量が少なく、断水状態が続いている。



メコン川と南シナ海をつなぐベトナム南部の海水逆流が広範囲に発生し、農産物に深刻な塩害が出ているが、降雨量の減少でメコン川の水位が低下し、海水が川に逆流した。2月末時点で、メコンデルタ地域10州の約1万8000ヘクタールが塩害を受けた。各州政府は盛り土で海水進入を防ぐ一方、トラックで水田に給水するなどの対策をしている。

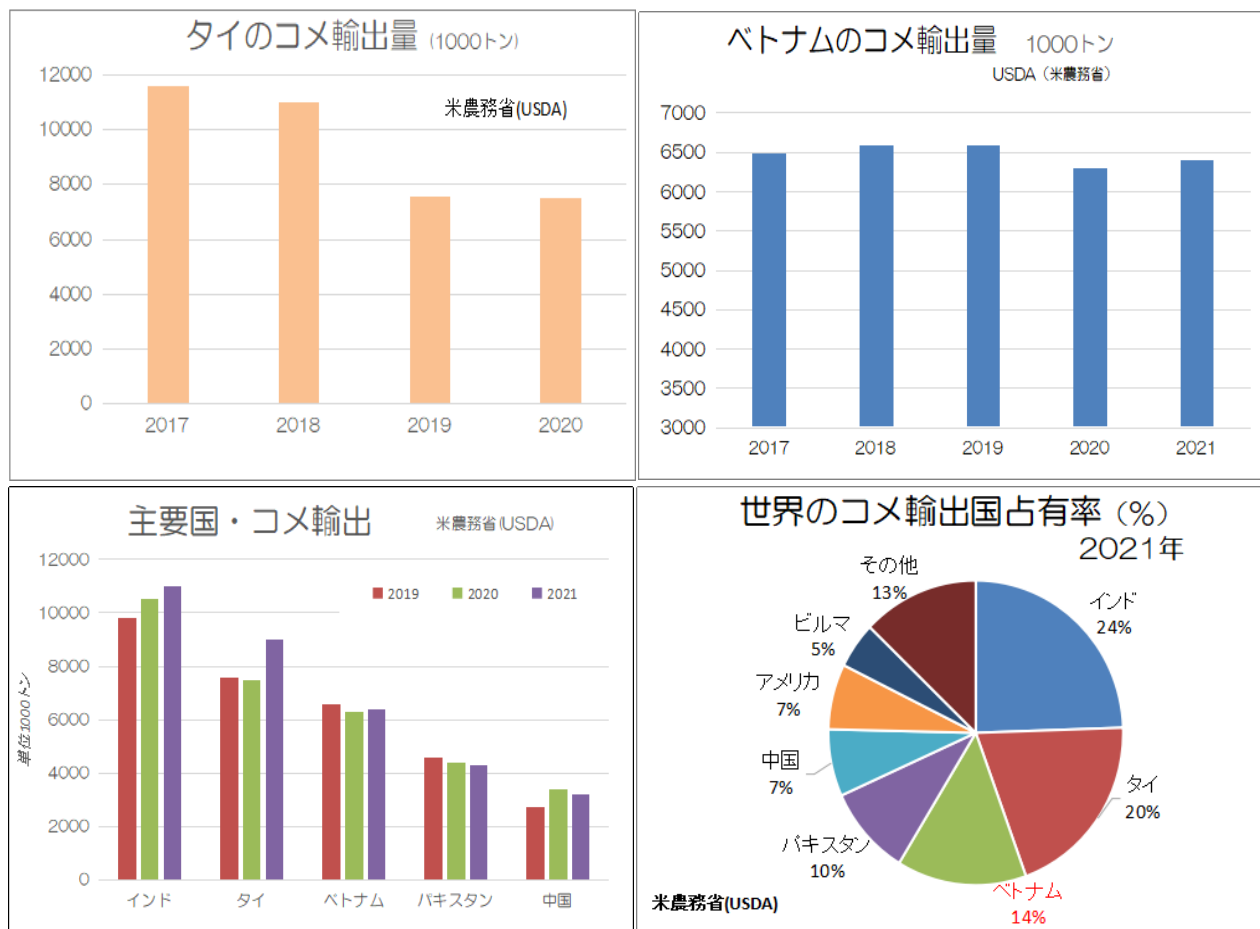
国際食糧農業機関は、2019/20年産の世界の米生産量は、5億1200万トンと前年度に比べ0.5%減る半面、消費量は、前年度に比べ1.3%増の5億1600万トンと見込んでいる。そのため、米の国際相場は今後も上昇しそうだ。

TOPICS ベトナムのコメ輸出量は世界第二位に

タイの大幅減産により、逆に、ベトナムの生産・輸出が好調であることから、ベトナムの今年のコメ輸出量が、前年の世界3位から2位に浮上する見込み。前年2位のタイがバーツ高や干ばつで低迷しており、今年は過去20年で最低を記録する見通し。ベトナムからは、シェア拡大となる公算が強い。

ベトナム税関総局によると、今年上半期のコメ輸出額は5%増の352万トン、輸出額は19%増の17億米ドル（約1,810億円）。一方、タイの輸出量と額は前述のとおり大きく減少している。

結果的に、今年通年の輸出量は、ベトナムが670万トン、タイが650万トンとなる見通しであり、ベトナム産は、タイ産より手頃となっており、中国、香港、フィリピン、マレーシアなど主要市場への販売契約が増えていると伝えられている。



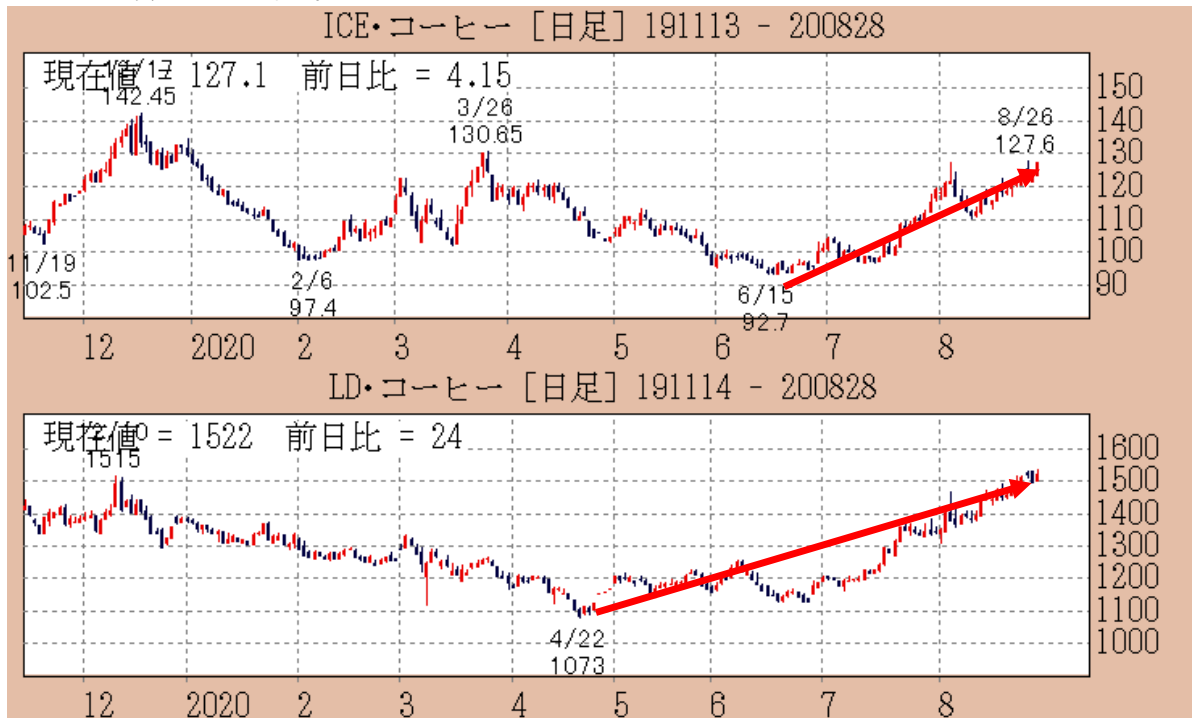
TOPICS 綿花や砂糖などほかのコモディティの上昇も警戒

コメ価格以外の、ソフト・コモディティの上昇も警戒すべき状況である。国際価格としての、コーヒー、粗糖、綿花などの相場が高騰しており、この状況が今後も続くのだとすると、2000年以降の国際食物価格が上昇したような状況となる可能性があり、については世界経済のコスト・プッシュ・インフレーションに対しても警戒すべき状況下にあるといえるだろう。

まずコーヒー価格だが、指標となるアラビカ種のNYコーヒー相場は1ポンド121セントまで上昇し、今年6月の安値93セントから30%上昇している。また4カ月ぶりの高値をつけた。

最大の生産地域である中南米で新型コロナウイルスの新規感染者数が増え続けており、供給が滞るとの観測から買いが優勢となった。また欧州の港湾在庫が減り始めており、実需の買いも入りつつあるという。

ドル建てで取引するコーヒー豆はレアル高が進むとブラジルの生産者や輸出業者のレアル建て収入が減りやすい。ドル安が進んで相対的にレアル高となっているため、ブラジルからの売り圧力がかかってくることも上昇の一因である。



TOPICS 砂糖価格も上昇



国際粗糖価格は5カ月ぶりの高値をつけている。主要産地であるインドやタイの天候不順で2019～2020年度（19年10月～20年9月）における世界の砂糖需給が供給不足と見込まれるためだ。中東情勢の緊迫化に伴う原油高への警戒感で、サトウキビからバイオ燃料への転用が増え砂糖の供給が細るとの観測も一因だ。国内製糖会社も先高への懸念が出始めている。

最新の8月4日のNY粗糖の期近は、高値で一時12.8セントまで大きく上昇し、今年4月の安値9セントから42%高となっている。

2019年12月時点で19～20年度の砂糖の世界生産量は1億7925万トン、消費量は1億8554万トンの見通し。18～19年度に比べ生産量は4.2%減り、消費量は0.5%増える。気象災害でサトウキビ生産量が減る見込みである。砂糖生産量2位のインドは西部の産地で18年には干ばつによる生育不良、19年夏には豪雨による農地の浸水被害が発生。生産量は2933万トンと18～19年度に比べ17.8%減る見通しだ。生産量4位のタイでも中部では少雨、東北部では干ばつの後に激しい豪雨に見舞われてサトウキビが被害を受け、生産量は1239万トンと18～19年度比19.8%と大幅に減ると予想されている。5位の中国も生産量が1103万トンと同5.2%減る見込みとなっている。

加えて、木綿の原料となる綿花の国際価格が上昇している。指標となるNY綿花相場はポンド当たり63.04セントと直近安値の4月上旬から3割上昇し、3カ月半ぶりの高値をつけている。

米農務省が22日発表した週間作況報告によると、米主要15州の作柄は「優」と「良」の占める割合が合計で40%。前年同時期を10ポイント下回った。一部産地で高温乾燥に見舞われ、供給減少の観測から買いが優勢となった。また米国で5月の衣料品の小売売上高が前月比2.9倍に増えたことも買い材料となったという指摘もある。

ただし、中国や米国などで新型コロナウイルス「第2波」の懸念も広がっていることから、それが綿花の消費に影響を及ぼす可能性がある。

今後の見通し

タイのコメを中心に、世界の農産物価格は天候異変などの影響で価格が上昇しているが、新潟コシヒカリの価格は14,680円前後で横ばいとなっている。秋の収穫を前に、コメの価格は下がりことが多いが、今年は特に大きな洪水による水田への閉胸は無く、生育は順調である。残念ながら毎年コメの需要は一人当たり消費量も含めて漸減しており、ことに新型コロナウイルスの影響を受けて業務用コメの需要が減少している。こうした需要の緩和状況を受けて、当分コメの価格は下落か横ばい基調が続くものと思われる。世界のコメ価格と日本のコメ価格は残念ながら乖離している。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行っておらず、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物の修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

発行元：